

宇都宮 宗康 議員



一問一答方式

- ① 認定こども園
- ② 乾式貯蔵の問題
- ③ 鹿野川ダム操作変更

認定こども園について

問 肱南地区では、大洲保育所を増築し、大洲幼稚園と肱南保育所を統合した認定こども園への移行を予定しているが、この施設に近い肱川本流の堤防では、昨年の豪雨災害により堤防が陥没し、破堤の手前であった。この堤防に守られた敷地に100人以上もの児童が登園することになるが、破堤の危険はないのか。

答 この堤防については、国が原因調査及び復旧対策法として鋼矢

板の仮設を142メートルにわたって緊急的に実施したところで。また、その下流側については、今回の調査でパイピング等による堤防の被災は確認されていないものの、引き続き調査を実施するとともに、必要に応じて対策方法の検討を行う予定と伺っています。なお、国では中島地区を重要水防箇所指定しており、堤防点検及びパトロールを適宜行うとともに、異常が万が一発見された場合においても応急的な対策がとれるよう体制を整えていると伺っています。

市としても、洪水時には大洲市消防団による巡視などを行い、水防活動を迅速に行える体制としています。

乾式貯蔵の問題について

問 四国電力は、平成30年5月に原子力規制委員会へ伊方発電所における使用済み燃料乾式貯蔵施設の設置にかかわる申請書を提出している。使用済みMOX燃料を再処理するための第二再処理工場はできる見込みがないが、伊方発電所に永久貯蔵されるのか。伊方発電所より30キ

ロメートル圏内の自治体として他人事でなく受け入れられるのか。

また、核のごみの最終処分場がない中で永久貯蔵されると市民は永久的に核の危険にさらされるのか。

答 原子力発電については、国の第5次エネルギー基本計画において、資源の有効利用、高レベル放射性廃棄物の減容化、有害度低減等の観点から、使用済み燃料の再処理やプルサーマルを推進することとされています。

これらについては、国において責任を持って対応されると考えており、今後も動向を注視していきたいと考えています。また、四国電力においては、あくまでも一時的な腹案であることも含めて、丁寧な説明により懸念払拭に努めていただくとともに、今後も安全性の確保を最優先に取り組んでいただくよう要請したいと考えています。

鹿野川ダム操作変更について

問 水防法に基づき洪水で相当な損害が出ると見られる河川を、国または県が水位周知河川に指定し、市長が避難勧告を出す氾濫危険水位

などを設定とあるが、本市にそのような指定河川があるのか。

答 水防法に基づく指定河川については洪水予報河川と水位周知河川があり、本市では洪水予報河川に肱川の国管理区間と矢落川の国管理区間の下流部が指定されており、水位周知河川には矢落川の国管理区間の上流部に加えて本年5月に肱川の県管理区間が追加指定されています。なお、洪水予報河川と水位周知河川では洪水予報の有無など多少の違いはありますが、氾濫危険水位や洪水特別警戒水位等の水位情報の通知等に関する規定が設けられており、市の避難情報等の判断基準として重要な役割を持っています。今回、新たに肱川の県管理区間が水位周知河川に指定されましたので、より適切な避難情報等の発令で行えるものと考えています。

